

[成果情報名] カンキツ新品種「津之輝」の特性

[要 約] 「津之輝(つのががやき)」は(独)果樹研究所が育成し、2月に成熟する、糖度が高く食味の優れた新品種である。

[キーワード] カンキツ、中晩柑、新品種、津之輝、口之津 34 号

[担 当] 静岡農林技研・伊農研セ

[連絡先] 電話 0557-95-2341、電子メール agriminamiiizu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 果樹

[分 類] 技術・普及

[背景・ねらい]

県内カンキツ産地から有利販売できる新品種が求められており、(独)果樹研究所等で育成された品種の中から、糖度が高く品質が優れた県内産地の気象条件に合った新品種を選抜する。

[成果の内容・特徴]

1. 「津之輝(つのががやき:系統名-口之津 34号)」は、果樹研究所カンキツ研究口之津拠点が、(清見×興津早生)×アンコール)の交配により育成した、タンゴールタイプのカンキツである。
2. 樹勢はやや強く、樹姿はやや長円形、枝梢は密に発生し、トゲの発生は少ない。年により裂果の発生がみられることがある(第1表、第1図)。
3. 平均果実重は 170g 程度、果形は果形指数 130 程度と扁円形である。果皮はやや滑らかで果皮色は橙色である。果皮の厚さは 2～3mm でやや剥きにくい、浮皮の発生は無く、す上がりは見られない。かいよう病は軽度の発生が認められる(第2表、第2図)。
4. じょうのう膜は薄く、そのまま食べられる。果汁量はやや多い。Brix は 14 度程度と高く、食味は良好である。可食適期は 2 月頃である。平均含核数は 0～7 個程度と年によるばらつきがあるが、花粉のあるカンキツ樹が近隣になれば、無核になると思われる(第3表、第2図)。

[成果の活用面・留意点]

1. 樹勢がやや強く、枝が立ちやすいため、結果年齢に達するのが遅い傾向があるので、幼木時は枝の誘引により着花・結実を促進する。
2. 年により裂果の発生がみられることがあるので、乾燥が続く場合は、かん水を行う。
3. 無加温、省加温栽培では 12 月に成熟し、果実が 250g 程度と大きくなることから、施設栽培で有望視される。

[具体的データ]

第1表 樹の特性および病害の発生程度

調査年度	樹性 樹姿	樹性 樹勢	樹冠容積 m ³	枝梢粗密	枝梢のトゲ 多少・長さ	発芽期 月半旬	開花盛期 月半旬	着花量	後期落果	裂果
2004	長円	強	0.8	密	少・短	3.6	5.2	多	無	無
2005	竹長円	竹強	1.2	密	少・短	4.2	5.3	多	少	竹少
2006	長円	竹強	2.3	密	少・短	4.2	5.5	少	無	無

第2表 果実の特性

調査年度	着色期 始 完全	平均果実重 g	果形指数	果皮色	果皮粗滑	果皮厚さ mm	剥皮性	浮皮	す上がり	かいよ う病	そう か病
2004	10.4 11.4	248	125	橙 中	竹難	2.2	竹難	無	無	軽	無
2005	10.5 11.6	123	128	橙 竹滑	竹難	1.7	竹難	無	無	軽	無
2006	11.1 12.1	167	131	橙 竹滑	竹難	3.2	竹難	無	無	軽	無

第3表 果実品質

調査年度	調査月日	分析果実重 g	果肉歩合 %	じょうの厚さ	果汁量	Brix	酸含量 %	含核数		
	月.日							完全種子	完全種子	無核果率
2004	1.20	235	82.0	薄	竹多	13.9	1.34	7.2	0.3	16.7
2005	1.20	120	84.0	薄	竹多	14.8	1.64	4.7	1.0	0
2006	1.17	153	81.2	薄	竹多	14.6	1.70	0	0	100



第1図 「津之輝」の6年生樹



第2図 「津之輝」の果実

[その他]

研究課題名：新しい静岡適応型果樹品種の選抜

予算区分：国庫委託

研究期間：2001～2010年度

研究担当者：荒木勇二